

## 平成27年度 「石狩市教育委員会外部評価委員会」 会議録

1. 日時 平成27年10月26日(月) 10:00~12:00

2. 会場 石狩市役所 403会議室

3. 出席委員

氏名	役職等	備考
村中 誠治	石狩ユネスコ協会 会長	委員長選任
伊井 義人	藤女子大学 人間生活学部人間生活学科 教授	副委員長選任
向田 久美	一般社団法人 アクトスポーツプロジェクト 理事	

事務局 (13名)

生涯学習部長 百井 宏己  
生涯学習部次長(教育指導担当) 武田 淳  
生涯学習部次長(社会教育担当) 東 信也  
総務企画課長 蛭谷 学俊  
学校教育課長 安崎 克仁  
教育支援センター長 板谷 英郁  
教育支援センター特別支援教育担当課長 森 朋代  
文化財課長 工藤 義衛  
浜益生涯学習課長 開発 克久  
総務企画課主幹 松永 実  
社会教育課社会教育担当主査 須藤 洋一  
学校給食センター給食担当主査 近藤 和磨  
総務企画課総務企画担当主査 高石 康弘

4. 傍聴者 なし

5. 議事要旨

～ 開会 ～

**蛭谷 総務企画課長**

本日はお忙しい中、お集まり頂き誠にありがとうございます。それでは、ただ今よ

り、平成27年度石狩市教育委員会外部評価委員会を開催致します。  
会議の開催にあたり、生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

～ 生涯学習部長挨拶 ～

**百井生涯学習部長**

おはようございます。新たな3年の任期をお受け頂きありがとうございます。委員は3人しかいませんが、委員一人ひとりから頂いた意見を大切に、また、内容一つ一つを真剣に捉えて参りたいと思います。本日はよろしくお願い致します。

～ 委員長の選任 ～

**蛭谷総務企画課長**

本来であれば、本委員会は、石狩市教育委員会外部評価委員会設置要綱第5条に基づき、委員長が招集することとなっておりますが、今回は、改選期にあたり初めての開催とのことで、事務局よりご連絡を差し上げておりますことをご了承願います。

それでは、要綱第4条第2項に基づき、委員長を互選により定めたいと思いますが、いかがいたしましょうか。特になければ、事務局案を提案させて頂いてよろしいでしょうか。

**委員全員**

異議なし。

**蛭谷総務企画課長**

では、事務局と致しましては、教員として校長の職務をまっとうされ、その後、旧浜益村教育長を勤められまして、現在は石狩ユネスコ協会の会長であります、村中委員に委員長をお願いしたいと思います。

**委員全員**

異議なし。

**蛭谷総務企画課長**

では、村中委員に委員長をお願い致します。一言、ご挨拶をお願い致します。

～ 委員長挨拶 ～

**村中委員長**

委員長を仰せつかり重圧を感じております。私は札幌に住んでいるのですが、教員としては千歳に新任で着任し、浜益がとても気に入りまして希望して行きました。その後、父親が倒れて石狩に来ました。紅葉山、紅南に赴任し、後、教頭で浜益に戻り、

校長では望来、南線と赴任しまして、最後は教育長で浜益に戻りました。合併した石狩がほとんどの勤務地なので、石狩には縁のようなものを感じます。また、石狩の自然や発展的なところなどを紹介するネットテレビの仕事にも携わりまして、出資して取締役をやっていました。3年間くらいがんばりましたが、これが大変で、取材をしないといけないし、営業もしないといけない。営業も港湾立地企業でスポンサー探しをして、百何十社も回って3社しかOKをもらえない。学校だと校長室に迎えられコーヒーも出されましたが、会社では門前払い。自分でやることの大変さを感じました。そんなこともやっていますが、今は石狩ユネスコ協会会長、平和の灯り推進委員会の会長も仰せつかっております。石狩市に生涯関わっていこうと思っていますのでよろしくお願ひします。

～ 副委員長を選任 ～

**蛭谷総務企画課長**

ありがとうございました。続きまして、要綱第4条第3項に基づき、副委員長を委員長の指名をもって定めたいと思います。委員長、指名をお願いします。

**村中委員長**

それでは、前回も委員を務められていました、経験のある伊井委員に副委員長をお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

**伊井委員**

承諾します。

**村中委員長**

では、よろしくお願ひ致します。

～ 事務局紹介 ～

**蛭谷総務企画課長**

それでは、本日会議に出席しています事務局を紹介させて頂きたいと思います。

**事務局全員 自己紹介**

(略)

**蛭谷総務企画課長**

それでは、これより先の議事進行を村中委員長にお願いいたします。

～ 議題 ～

#### 村中委員長

議題の「教育委員会点検・評価報告書（平成 26 年度分）案について」事務局よりご説明願います。

#### 総務企画課高石主査

総務企画課の高石です。本日、皆さまのご意見を頂く対象となります。「教育委員会の点検・評価報告書」の概要を説明致します。

構成は、大きく分けて、2つあります。1つ目は、「教育委員会の活動状況について」です。教育長を含めた5名の教育委員の活動は、教育委員会会議での審議などを中心としています。その他にも、教育現場の実態把握や様々な場面での意見交換など、多様な活動をしています。これらの活動については、2ページから7ページに記載しています。2つ目は、「教育に関する事業について」です。教育プランにおいて、大項目として位置付けた11本の施策の推進方針の中で、その中項目、または小項目ごとに、関連のある成果指標を示し、「取組状況」・「分析評価・方向性」の順に記載し8ページから40ページにまとめています。

また、ポイントを絞って点検評価を行うため、主に次の3つの事項に関連する関連する施策等についての点検評価を行っております。1つは、教育プラン成果指標、1つは、該当年度の教育行政執行方針、1つは、該当年度の主要な施策の成果、です。教育行政執行方針、主要な施策の成果は43ページ以降に資料を付けております。

以上で「教育委員会の点検・評価報告書」概要の説明を終わります。

#### 村中委員長

今、事務局から説明がありましたが、進め方としては、大項目ごとに、また、全体に渡るものは最後に、皆さまから事前に頂いている「ご意見など」を伺いながら、「点検評価報告書に記載する意見」を決めて行きたいと思います。本委員会は審議会ですので、「点検評価報告書に記載する意見」でない様々なご発言も、すべて議事録に残ります。また、「点検評価報告書に記載する意見」や審議会での発言については、すぐに対応できないものについても、翌年度以降も検討対象として、教育委員会として常に、受けとめてもらっているとのこと。

それでは、さっそく、議事に移りたいと思います。

## 1. 教育委員会の活動状況について

#### 村中委員長

(No.1)「引き続き、積極的に教育現場の実態把握に努めることを望む。」教育委員は、学校教育の現場もちろんですが、社会教育の現場では特に活動をしていると感じています。

#### 伊井副委員長

(No.2)「学校再編など将来の構想などの議題は、長期的な視野に立ち一定の時間をかけて

議論することを望む。」毎回この報告書を見ると様々な案件を扱っていると思います。学校再編などの長期的なビジョンというものを、当然既にされているとは思いますが、意見として申し上げたいと思います。

(No.3)「外部評価の実効性をあげるひとつの手法として、外部評価委員会と教育委員の何らかの意見交換の場をつくることを望む。」私は外部評価委員として4年目で、これは常に思っていることなのですが、外部評価がどのように影響を与えているのか。手段は沢山あると思いますが、その一つとして例えば、教育委員と外部評価委員の何らかの意見交換の場を作っていいのではないかと感じているということです。

**村中委員長**

このことについて、事務局から何かございますか。

**蛭谷総務企画課長**

今、頂きました、「学校再編」については、現在、厚田区、本町・八幡地区において学校のあり方についての課題に取り組んでいるところであります。特に、地域性の部分など大きな課題については、丁寧に時間をかけて議論することが大切と考えており、教育委員と事務局の間でも活発に意見のやりとりをさせて頂いております。今後も、対外的な説明の場も含めて丁寧に対応したいと思っています。

もう1点の「教育委員と外部評価委員の意見交換の場」については、事務局としてもそのような機会を検討して行きたいと思っています。

**百井生涯学習**

数年前、外部評価委員の方から、社会教育委員や文化財保護審議会などの各審議会との意見交換・交流をすべきではないか、という意見を頂きました。現在は、毎年交流しています。伊井委員のご意見については事務局も同様に感じていますので、教育委員にお伝えしたいと思います。

**村中委員長**

今の教育委員長とは様々な場でお会いしますが、熱心に石狩のことを考えていると感じていますので、私もそのような機会があれば良いと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【教育委員会の活動】**

- 引き続き、積極的に教育現場の実態把握に努めることを望む。
- 学校再編など将来の構想などの議題は、長期的な視野に立ち一定の時間をかけて議論することを望む。
- 外部評価の実効性をあげるひとつの手法として、外部評価委員会と教育委員の何らかの意見交換の場をつくることを望む。

## 2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性～

### 施策（大項目）1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

#### 村中委員長

(No.4)「学力向上に向けた取組は年々充実しているが、今後は指導方法やマニュアルの研修を深めていくことを望む。」これは当然進められていると思います。今は、学力向上に向けた取組は充実していると思いますが、今後は物理的なものだけではなく、その中身、つまり、個別指導にあたる教員の手法などの研修等を深めて行くことが必要だと思います。

(No.5)「学力の伸び悩む子どもについては、対応すべき的を絞り、素早く、きめ細やかな対応をするよう望む。」これは先の意見とも共通しますが、一人ひとりの子どもについて把握し、その子に応じた力をつけさせることが大事なのではないかと思います。

#### 伊井副委員長

最初に、SATでいつも藤女子大学の学生がお世話になっていることを、感謝したいと思います。SATの数値を見て平成26年度は42名とありますが、全員が藤女子大学ではないですが、お世話になっています。先週、教員採用試験合格発表がありまして、私が担当しています花川キャンパスの人間生活学科の4年生6名が家庭科の教員となりました。その全員がSATの経験者でした。大学としても一層連携をさせて頂きたいと思っています。まずは、御礼申し上げます。

(No.6)「学校図書館の整備や人的支援は充実してきているが、効果的に教員の理解を進め授業などで活用できるようにしてほしい。」文部科学省が進めているアクティブラーニングの核となるものが学校図書館の活用とICTと思っています。学校図書館は、数値的には充分充実していると思うが、今後は、一般の教員がどのように理解を進めて活用できるか、工夫をしていって欲しいと思います。

(No.7)「ICTの次の一步は？」かつて紅南小学校を筆頭にICT教育が充実し石狩市の特色のひとつでしたが、維持費等々大変な苦勞なされていることと思いますが、次の一步はどうして行くのかお聞きしたいと思っていました。

#### 村中委員長

この質問について、事務局からお願いします。

#### 安崎学校教育課長

平成25年3月の提言を受け、紅南小学校のフューチャースクールのミニマム版を整備し、全普通教室に実物投影機、デジタル教材、電子黒板など効果的に整備し、提言の方向性を基に充実を図ることに努力しましたが、実情としては、パソコン教室の更新に合わせ、活用場面を広めるため、無線LAN化とデスクトップパソコンから機

動性のあるノートパソコンへ更新をしています。しかし、付随するデジタル教材、電子黒板などの整備が追いついていない状況です。費用の面でスピード感を持たせられないのが現状で、今でもパソコン教室にはデスクトップパソコンがある学校もあり、無線LAN化がされていない学校もあります。まずは、ここの整備を目指して行っている状況であり、基盤がまだできていない状況と捉えており、次の一步はまだ見出せていない状況です。

#### 伊井副委員長

お聞きしたいことは沢山あるのですが、ICT教育の基盤を作っていくと同時に、教員がどのように活用するのかというノウハウの継承ということも、同時に進めて行かなければいけないと感じました。

#### 向田委員

(No.8)「学習は本来与えられてするものではなく自発的に行うものであることを、しっかりと家庭に認識してもらえよう家庭教育に対する支援を進めることを望む。」私の娘も地元の紅葉山小、花川北中でお世話になりました。今回の資料を見ていて、娘たちの時代より、現在の学校の先生や学校は工夫をされて、とても手厚く子どもたちに対応されているように感じます。母親目線ですが、学校教育で手厚く対応してくださるのが当たり前になり、やっってもらうのが当たり前という家庭側の感覚がどんどん強くなっているように感じます。学習は本来与えられてするものではなく、自発的に自ら進んでするもので、学校はきっかけを与えている場であることを、家庭も認識するというアプローチができればより効果的ではないかと思いました。

#### 村中委員長

ICTについては、浜益小学校ではしっかり取り入れて学力も上がったし、子どもたちが活き活きと活躍する面もみられました。効果は絶対にあると思います。ぜひ、そういった方向で進めて欲しいという意見として、伊井副委員長の質問を扱いたいと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

#### 【学力】

○学力向上に向けた取組は年々充実しているが、今後は指導方法やマニュアルの研修を深めていくことを望む。

○学力の伸び悩む子どもについては、対応すべき的を絞り、素早く、きめ細やかな対応をするよう望む。

#### 【学校図書館】

○学校図書館の整備や人的支援は充実してきているが、効果的に教員の理解を進め授業などで活用できるようにして欲しい。

#### 【ICT】

○ICT教育の基盤整備を進めると同時に、教員がどのように活用するのかというノ

ウハウの継承を進めることを望む。

**【家庭教育】**

○学習は本来与えられてするものではなく自発的に行うものであることを、しっかりと家庭に認識してもらえるよう家庭教育に対する支援を進めることを望む。

**施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実**

**伊井副委員長**

(No.9)「特別支援教育支援員は、学級の支援に有効であるとありますが、「有効性」はどのように判断しているのでしょうか。」

(No.10)「サポートブックの利用状況は。」

(No.11)「特別支援教育にかかり、保護者の支援に努めましたとありますが、保護者支援の声を拾うシステムはできているのでしょうか。」

この3項目について、数値上は非常に充実しているのですが、有効性はどうなっているのでしょうかという視点で質問したいと思います。

**村中委員長**

この質問について、事務局からお願いします。

**森 特別支援教育担当課長**

1点目は特別支援教育支援員の有効性、評価ですが、大きく2つの方向性で実施しています。一つ目は、日常の評価としては、特別支援教育支援員が学校に入っていく中で、担任の先生、各校コーディネーターと日常細かく確認しています。また、支援センターとしても事例研修の手法で支援員の研修を年に3回実施しています。二つ目は、学校にアンケート年度末に実施しており、8校の配置校に実施、8校全て有効という答えを頂いています。

2点目はサポートブックの利用状況ですが、サポートブックは特別支援学級の児童生徒の保護者全てに配布しています。これを個別の教育支援計画として活用し、継続して実際の評価を書き込み、次の支援に活用することを考えています。ただし、活用については保護者や学級の温度差があると感じており、研修や学級訪問を通してより充実を図りたいと考えています。

3点目の保護者支援ですが、大きく二つの道筋で考えており、一つ目は、学校を通しての把握であり、保護者の関わる学校が一番わかっているのも、まずは学校が窓口となり、より専門的なサポートが必要な場合は教育支援センターを活用して頂いています。相談の道筋をわかりやすくし、コンサルテーションの役目を果たすことで、学保護者支援を行っています。二つ目ですが、様々な場面での把握で、保護者の相談チャンネルが多いほうが課題解決につながると考えていますので、教育委員会の広報、保育園、検診の場などを活用し周知して行きたいと考えています。



#### 向田委員

(No.12) 「特別支援教育については、充実した支援を行っていると感じます。」

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は特になしと決定された。)

### 施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進

#### 村中委員長

(No.13) 「各学校で特色ある教育を進めているが、市内各校の先生方も他校の取組内容がわかるようになることを望む。」石狩に赴任して来た教員にすばやく石狩の現状をわかってもらいたし、夏休みや冬休みの研修でもやってもらってもいいのかなと思います。

(No.14) 「藤女子大学はじめ、地域の豊富な人材を活かした学校支援活動は貴重なので、今後も地域の力を大切にしたい。」若々しい藤女子大学の活動から、退職された教員やサイエンス・アイの大学教授など石狩は人材が豊富なので、ぜひ活用して欲しいと願います。

#### 伊井副委員長

(No.15) 「石狩市の理解を深めてもらうための教職員研修を行っていることは評価できる。教職員のニーズにも合致するよう、今後も石狩ならではの「特色」「先進的なテーマ」などの研修を継続して欲しい。」優れた実践事例とも関連しますが、全国的な傾向で研修は必要なのは当然ですが、石狩ならではの内容、特色、先進的なテーマなどを継続して頂きたいと思います。

(No.16) 「学校教育にかかる優れた実践事例について、教職員研修などで共有されることを望む。」委員長の意見と重なる点もあると思いますが、石狩市内にも優れた教育実践事例がありますので、こういった研修の場を通して共有されるよう望みます。

(No.17) 「学校ホームページなど、保護者や地域住民の評判は？」学校ホームページを開設している割合は100%ですが、実際のところはどういう状況なのかという質問です。

#### 村中委員長

大項目について、全委員が発言してから事務局の回答をもらいたいと思います。

#### 向田委員

(No.18) 「学校力向上に関する総合実践事業の実績が良い刺激となり、市内全体の学校力が向上する事を望む。」花川小学校を中心とした学校力向上に関する総合実践事業の効果は、とても高い評価を得ていると伺っています。市内の他の小中学校にも、良い刺激となり市内全体に波及することを期待します。

(No.19) 「高齢者が児童と関わり社会性を回復・保持できるような学校教育活動への支援が一層充実することを期待する。」仕事上、高齢者と関わるが大変多いのですが、施設にこども110番のシールが張ってあることで、子どもたちが立ち寄ることもある

のですが、高齢者は子どもがと関わることで社会性を回復できるような良さがあります。石狩も高齢化が進んでいますので、高齢者も積極的に学校教育と関わって、子どもたちから良い影響を受けられるよう、きっかけがつけられたらありがたいと思います。

#### 村中委員長

先ほどの学校ホームページにかかる質問について、事務局からお願いします。

#### 武田生涯学習部次長（教育指導担当）

直接、保護者一人ひとりからお聞きしたことはないのですが、全校が学校ホームページに取り組み、また、新たに赴任した校長の学校教育に対する方針、挨拶、あるいは学校だよりなどが素早くアップされるなど、更新が早いと思っています。また、小さな学校ではなかなか職員が対応できないということもあり、市教委からICT支援員が来て更新のサポートなどを行っています。概ね、月に1回、早いところで毎日更新している状況です。カウント数を見ていると、結構な方が見ていると感じていますが、学校の取組や自分達が関わった取組について確認しているのではないかと、認識しています。

#### 伊井副委員長

原案14ページに、「【全体】優れた実践事例の共有できるシステムの構築を期待する。（学校教育分野、社会教育分野に関わらず）（平成26年度意見）」とありますが、これを受けて実現したと捉えてよろしいのでしょうか。

#### 村中委員長

事務局からお願いします。

#### 武田生涯学習部次長（教育指導担当）

これについては、学校力向上に関する総合実践事業の使命から考えますと、成果の普及というのが大きなテーマとなっていて、このテーマの中には、教育活動はもとより、学校支援地域本部をはじめとした社会教育との関連など、多くの課題が含まれています。指定校の花川小学校を中心に、紅南小学校、緑苑台小学校、双葉小学校、花川中学校の5校に、さらに平成27年度から花川北中学校を加え、2つの中学校区で取り組むスタートを図りました。また、学校がそれぞれ取り組み、担当職員が年に3、4回会議を行いながら交流を行うのですが、これらの取組状況が共有できるように、夏休みの1日目には合同テーマ研修ということで小中連携や学習規律などの実践について交流をしています。また、学校支援地域本部等の支援によって、学習に関する検定活動などを行っていることなど、また、この取組そのものが市全体に浸透するようなイメージで進めているところです。

#### 村中委員長

花川小学校では成果を上げているとのことですが、例えば、指定校になっても成果が上がらない学校もあると思いますが、その中で、きちっと成果を上げている、なぜ、成果を上げているのか分析し押さえる必要があると思います。

**武田生涯学習部次長（教育指導担当）**

花川小学校は、私が赴任する前から、子どもたちの実態に合わせて学習活動あるいは生徒指導等を進めていました。例えば、通級指導教室の設置についても、市教委の支援を頂いていますし、学習の苦手な子には報酬的な学習や宿題など丹念に取り組むなど、管理職が効果的な方向を示し、職員が一致した方針で、同じ方向を向いているのが一番成果に結びついているポイントではないかというのが実感です。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

**【特色ある学校教育】**

○各学校で特色ある教育を進めているが、市内各校の先生方も他校の取組内容がわかるようになることを望む。

**【学校力の向上】**

○学校力向上に関する総合実践事業の実績が良い刺激となり、市内全体の学校力が向上する事を望む。

**【教職員研修】**

○石狩市の理解を深めてもらうための教職員研修を行っていることは評価できる。教職員のニーズにも合致するよう、今後も石狩ならではの「特色」「先進的なテーマ」などの研修を継続して欲しい。

○学校教育にかかる優れた実践事例について、教職員研修などで共有されることを望む。

**【学校教育活動への地域住民の参画】**

○藤女子大学はじめ、地域の豊富な人材を活かした学校支援活動は貴重なので、今後も地域の力を大切にしたい。

○高齢者が児童と関わり社会性を回復・保持できるような学校教育活動への支援が一層充実することを期待する。

## 施策（大項目） 4 学校教育を推進する環境の充実

**村中委員長**

(No.20)「IT時代なので、児童生徒用、教師用のパソコンの配置を充分にして欲しい。」先ほどのICTの意見と重なりますが、効果的なのでしっかりと進めて欲しいと思います。

(No.21)「学校統合の推進は、あくまで児童・生徒の教育環境を第一に考えて欲しい。」学校統合は石狩市の一つの課題でもあります。充分になされていると思いますが、あくまでも、児童・生徒の教育環境を第一に考えて欲しいと思います。

### 伊井副委員長

- (No.22)「パソコン一台あたりの児童生徒数が 5.6 人となっているが、後退傾向にあるか？」  
これは更新時期のせいでしょうか。先ほどお答え頂いた内容に含まれるのであればお答え頂かなくても結構です。
- (No.23)「教員一人ひとりにパソコンが支給されているのは評価できるが、内実の効果について評価をすることを望む。」数値を見ると既に充実していますが、使いやすいシステム構築になっているのか実際のところを教えてくださいたいと思います。
- (No.24)「子育ての経済的支援、不安度の悪化が気になります。部局を超えた対策を望む。」  
昨年も述べさせて頂いていますが、前回に比べ数値も悪化しています。ぜひ部局を超えて対策されるよう望みます。
- (No.25)「地産地消の目標値の実現は難しい理由は？」石狩デーなど、色々と工夫されているとは思いますが、目標値達成が難しい点があれば教えてくださいたいと思います。

### 向田委員

- (No.26)「住民が子どもたちに関心を持っている地域は、不審者に対する防犯効果も高いと思われるので、そのような地域となるよう、引き続き「あいさつ」がしっかりと行われるよう取り組んで欲しい。」私のメールにも石狩市から、不審者情報がたびたび寄せられます。その内容は小学生対象の声掛けが多く、心配になります。その一方で、登下校時「お早うございます」「こんにちは」と、あいさつをしてくれる子どもたちが増えたような印象があります。子どもからあいさつされると、大人も子どもたちの顔を覚えられます。あいさつを一言交わすことで、地域住民も子どもたちを認識できるようになり、防犯にも役立つと感じています。学校においても継続して指導をして欲しいと思います。

### 村中委員長

伊井副委員長の質問について、事務局からお願いします。

### 安崎 学校教育課長

児童生徒のパソコン数ですが、紅南小学校は1人1台の環境でありましたが、更新にあたり、市単独ではそれが叶いませんでした。Windows タブレット 80 台と ipad80 台、2 学年分を更新したところで、これが反映された数値となっています。

教員のパソコンについては、教員の事務負担軽減のため校務支援システムを今年度から導入し、今後順次増やして行く考えを持っています。校務支援システムは、教職員一人ひとりにアドレスが付与されるほか、教務処理、出席簿、成績処理、通知表などの機能があります。児童生徒の情報を指導要録や通知表に反映させるなど、転記作業が一つのシステム内で自動的に反映されるなど、転記・確認作業等が大幅に削減されます。また、「いいところみつけ」機能では一人の先生が見つけた子どもたちの情報を入力し、教職員全員で把握することができます。

**近藤 学校給食センター給食担当主査**

地産地消の目標値についてですが、米、野菜を対象としており、野菜は主要 10 品目を対象としております。この内、たまねぎとキャベツにつきましては、地場産の使用割合は 20%を下回っております。また、白菜・長ネギ・きゅうりの 3 品目に至っては地場産使用実績はありません。このようなこともあり、目標になかなか届かないという状況が続いています。給食センターとしては、当然石狩産を優先して使って行きたいと思うのですが、ではなぜ石狩産を使用できないかという点、給食の場合、決まった材料費の中でやりくりしますので、価格的に折り合いがつかない、あるいは、現在の 3 センターの調理数が多いところは 3000 食弱を調理していますので、それだけの量を確保するのは難しい場面もあることから、必ずしも石狩産が使えるという状況ではないのが実情です。

**蛸谷 総務企画課長**

学校統合についてご意見頂いていますので、現在の状況について説明させて頂きたいと思っております。昨年 9 月から今年の 3 月までに厚田区、本町・八幡地区において地域で検討会を開いており、4 月に意見・検討のまとめを頂きました。色々意見が出ましたが、これを踏まえて、市教委として具体的な方向性を示して欲しいという要望を頂いています。具体の案を策定するにあたっては、今年の夏に僻地教育の専門家、生涯学習の専門家、今日ご出席されています伊井先生も交え、外部の識者に現地に足を運んで頂き参考意見を頂戴し、それを踏まえ、教育委員と事務局、または市役所内部でも検討作業をしている最中です。順調に進めば、できれば年内に地域に説明する機会を設けたいと思っています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【学校統合】**

○学校統合の推進は、あくまで児童・生徒の教育環境を第一に考えて欲しい。

**【ICT】**

○IT の時代なので、児童生徒用、教師用のパソコンの配置を充分にして欲しい。

○教員一人ひとりにパソコンが支給されているのは評価できるが、内実の効果について評価をすることを望む。

**【子育てに関する不安解消】**

○子育てに関しての経済的な不安感が増加していることから、部局を超えた対策を望む。

**【あいさつ】**

○住民が子どもたちに関心を持っている地域は、不審者に対する防犯効果も高いと思われるので、そのような地域となるよう、引き続き「あいさつ」がしっかりと行われるよう取り組んで欲しい。

## 施策（大項目）5 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

### 村中委員長

- (No.27)「スタートプログラム「おしゃべランド」と「くるりんぱ」が児童に与えているインパクトはとて大きいので、これからも継続して欲しい。」ユネスコ活動との関連ですが、子どもたちにはとても印象に残っているらしく、小学生が6年生になっても中学生になっても、このことを覚えていると話してくれます。引き続き行って欲しいと思っています。
- (No.28)「子どもたちが一流の芸術に触れることはとても大切なので、今後もぜひ継続して欲しい。」結構前ですが、八幡小学校で増毛出身の三國シェフ、グランドホテルの料理長、ガトキンの料理長など一流シェフが集まって6年生を指導する場面を見たのですが、そういったことのインパクトは子どもにすごい影響がありますし、双葉小学校になる前の若葉小学校でも葉加瀬太郎が来て指導して、一発で迫力ある演奏に切り替わり、これもすごいインパクトでした、芸術に限らず一流に触れる体験はぜひ継続して欲しいと思います。
- (No.29)「子どもたちの健全な成長には体験活動は不可欠なので、厚田や浜益の自然の中での体験活動をぜひ取り入れて欲しい。」学校に余裕がなくなっているだけに、ぜひこういった手法も行って欲しいと思います。
- (No.30)「読書活動は石狩市の特色の一つとして様々な努力が行われていますが、今後も一層本に親しめるよう、幼稚園や保育所も含めた関係機関と協力し、充実していくことを望む。」各市で色々なアイデアが出ており取組も見えますので、そのようなことも参考に、ぜひ、充実して欲しいと思います。

### 伊井副委員長

- (No.31)「体験活動への参加者が増加していることとても評価できます。その体験を、学校でどのように授業を通して活用しているのかの評価も必要だと考えます。量的な評価から質的な評価への転換。」委員長からもありましたが、体験活動への参加者が非常に多くなっています。これは肯定的に評価して良いのではないかと思います。一方で、一つのイベントとして終わらせるのではなく、学校の中でどのように活用されているのか、評価という言葉が適切かはわかりませんが、活用して行って欲しいと思います。
- (No.32)「小学生の読書好き割合がなだらかに下降している理由は？」成果指標において、小学校と中学校に対照的な傾向が見えます。小学校はなだらかに下降していて、中学校はなだらかに上昇しています、何かの取組の影響があれば伺いたいと思います。
- (No.33)「不登校やいじめが減少している傾向は望ましい。」特に、中学校のいじめ件数が少ないのは非常に驚きでした。

### 向田委員

- (No.34)「様々な機会で、他人を思いやれる心や強い心を形成する「心の教育」が推進されることを望む。」私はスポーツを通して子どもたちとふれ合うことが多いのですが、思

い通りにならない場面に出くわしたときに、へこんだり、心が折れたり、切れたりするような子をたまに見かけることがあります。もちろん学校でも教育されていると思いますが、様々な場面で感謝する気持ちや人を思いやったりする、心の教育を推進して欲しいと思います。

#### 村中委員長

伊井副委員長の質問について、事務局からお願いします。

#### 安崎学校教育課長

体験活動についてですが、単なるイベントとして終わらせないように、学校では振り返りをさせたり、狙いを持ってイベントに臨んでいるところですが、その点を再確認するよう学校へお伝えしたいと思います。

#### 東生涯学習部次長（社会教育担当）

感想としては、非常に高いポイントで推移していると思っています。具体的な数値は持ち合わせていないのですが、計算では12人程度の減だと思います。平成22年度から小学校に学校司書を配置していますので、少しずつ次の学年、中学校も含めてプラスになってきているのではないかと考えており、子どもの読書推進活動計画においてしっかりと、この取組を進めて行きたいと思っています。

#### 伊井副委員長

目標値が上向きに設定されているので、どうしても先入観で見えてしまいます。次回の目標設定はどうするのか、違うやり方もあるのではないかと思います。70%もあれば十分だという目標設定の仕方もあると思います。全てが上がっていけば良いというものでもないと思います。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

##### 【情操教育】

- スタートプログラム「おしゃべランド」と「くるりんぱ」が児童に与えているインパクトはとても大きいので、これからも継続して欲しい。
- 子どもたちが一流の芸術に触れることはとても大切なので、今後もぜひ継続して欲しい。

##### 【体験活動】

- 子どもたちの健全な成長には体験活動は不可欠なので、厚田や浜益の自然の中での体験活動をぜひ取り入れて欲しい。

##### 【読書活動】

- 読書活動は石狩市の特色の一つとして様々な努力が行われていますが、今後も一層本に親しめるよう、幼稚園や保育所も含めた関係機関と協力し、充実していくことを望む。

##### 【心の教育】

○様々な機会、他人を思いやれる心や強い心を形成する「心の教育」が推進されることを望む。

## 施策（大項目）6 心身の健やかな成長を促す教育の推進

### 村中委員長

(No.35)「活発な少年団活動などを活かして、入会していない子どもたちも一日体験会を行うなど、スポーツを楽しめる機会が広がることを望む。」スポーツ広場でソフトボールの一日体験を見たのですが、バットもグローブもそこにあってすぐ体験できる、とても良いものだと思います。関連機関や団体と連携して、そういった機会が広がって欲しいと思います。

(No.36)「市民スポーツまつりはとても良い行事の一つと感じているが、一層、お年寄りが参加できるようになることを望む。」高齢化社会を迎えています、お年寄りが、もう一回やってみようかなという気持ちも含めて、参加しやすいよう進めて欲しいと思います。

(No.37)「基本的な生活習慣の定着は、学校やPTAと協力し市民と共に進めて行くことを望む。」子どもを取り巻く状況は、ゲームや家庭環境など難しくなっていると感じています。「あいさつ」なども家庭で話されているかで違ってくるとは思いますが、しっかり学校やPTAと連携して進めて欲しいと思います。

### 伊井副委員長

(No.38)「食に関する指導の目標値の見直し?→大学生を活用してもらおう。(目標値の妥当性)」申し上げたい事は目標値と実績の関連性の問題です。食に関する指導も、目標値160に対して67回となっています。アレルギー対応等で栄養教諭が配置外の学校に行くのが難しくなっているとは思いますが、目標値、プラン策定時の実績が示されているので着目せざるを得ないところがあります。目標値の見直しも検討の一つと思いました。また、藤女子大学でも栄養教諭を養成しているので、ぜひ連携して活用して頂けたらとも思っています。

(No.39)「インターネット利用の利用時間が伸びるのは時代の流れと思われるが、学校教育としてこのことをどのように捉え有効に活用するのかを考えるべき。」プラン策定時の実績値をとった平成20年度とは恐らく時代が変わっていて、今の子どもたちは、インターネットと接するのが当たり前になってきていると思います。目標値が妥当であるかどうか、若しくは、インターネットを使うことを前提に何かを考えていかなければならないのではないかと感じました。

### 向田委員

(No.40)「遊びは、体力向上のほか様々な面においても子どもの成長に効果的であるが、最近の子どもたちは工夫を凝らした遊び方がわからなくなっていると感じている。大人が積極的に関与し、遊びのきっかけ作りや遊び方を提案することが望まれる。」総合型



地域スポーツクラブを昨年設立させて頂きまして、教育委員会の皆様にもご協力頂き本当にありがとうございます。私達の総合型地域スポーツクラブを立ち上げた主旨でもある子どもの体力向上などこれからも協力して行ければ良いなと思っています。スポーツと言うとすごく難しく考える部分もあると思うのですが、本来のスポーツは遊びから始まっている部分もありまして、遊ぶ力が子どものスポーツへの結びつきを作っていくというところがあります。今、子どもたちは、ゲーム機の普及などもあって、集まってもそれぞれゲームを手を持って、全くコミュニケーションないような状況も多く見受けられます。大人がそこに介入しないと上手く遊びができない状況になっているのではないかと危機感を抱いています。その中で私達の総合型地域スポーツクラブなどが機会を設けて、大人が介入して遊びからスポーツに結びつききっかけをつくれたらいいと思っています。

#### 村中委員長

伊井副委員長の質問について、事務局からお願いします。

#### 近藤学校給食センター給食担当主査

食に関する指導の現状ですが、目標値を設定した当初と現在では、配置数は市内に5名と変わっていません。仕事の内容は変化してきており、食物アレルギー対応、新センター建設への助言など業務が増えています。また、教員としては学校の行事等で拘束されることも多くなり、なかなか配置校以外での食に関する指導の余裕がない。学校のカリキュラムにも食の指導を入れる余裕がない状況です。そのため、想定したとおりととはなっていない状況です。大学生の活用は今のところ行っていませんが、栄養教諭や学校とも相談しながら検討したいと思います。

#### 蛭谷総務企画課長

目標値の設定についてですが、例えば、インターネットの利用については、前期プラン策定当時はいかなものかという見方でしたが、時代は変り今は学習にも使いますので、後期プランの検討の際、状況を判断して指標を設定していますので、後期プランでは、ゲームをする時間を減らすよう指標設定しています。

栄養教諭の配置校以外の食の指導回数という指標については、実際問題としてなかなか難しく、後期プランでは除いた形をとっています。

#### 伊井副委員長

目標値をより現実的にしているということですか。

#### 蛭谷総務企画課長

平成26年度までが前期プランですが、後期プランに向け見直し作業をする中で、各指標を現実の問題と合わせて見直しました。検討の中で設定が変わったり、また、役割を終えたり、同じような基準を設けることが適切でない場合などは設定しないなどしています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【体力】**

- 活発な少年団活動などを活かして、入会していない子どもたちも一日体験会を行うなど、スポーツを楽しめる機会が広がることを望む。
- 市民スポーツまつりはとても良い行事の一つと感じているが、一層、お年寄りが参加できるようになることを望む。
- 遊びは、体力向上のほか様々な面においても子どもの成長に効果的であるが、最近の子どもたちは工夫を凝らした遊び方がわからなくなっていると感じている。大人が積極的に関与し、遊びのきっかけ作りや遊び方を提案することが望まれる。

**【望ましい生活習慣】**

- 基本的な生活習慣の定着は、学校やPTAと協力し市民と共に進めて行くことを望む。

**【ICT】**

- インターネット利用の利用時間が伸びるのは時代の流れと思われるが、学校教育としてこのことをどのように捉え有効に活用するのかを考えるべき。

## 施策（大項目）7 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

### 村中委員長

(No.41)「子どもの安全を守るためには地域の協力が不可欠なので、引き続き、関係機関との連携を望む。」もっともな話で、引き続き、関係機関との連携を望むものです。

### 伊井副委員長

(No.42)「メール配信サービス（不審者情報）の登録者は減少しているが、今後はLINEやSNSなど、時代のニーズに合わせた情報発信も検討して欲しい。」学生とやりとりをしても、メールでは反応が悪くて、LINEとかツイッターなどでは反応が良いのです。メール配信サービスに限ったことではないかもしれませんが、もっと多様な情報の提供の仕方があっても良いのではないかと考えました。

### 向田委員

(No.43)「子ども110番の家いしかりサポート事業は、地域で子どもを見守る体制づくりとして有効と思われることから、引き続き取り組んで欲しい。」子ども110番の家のステッカーを張ると、子どもたちが気軽に雨宿りやトイレに訪れます。なんとなくそのやりとりがうれしく、地域で子供を見守る体制づくりとして、とても良い事だと思いますので、引き続き取り組んで欲しいと思います。

### 村中委員長

不審者情報の登録者は減少しているようですが、ちょっと現場の人の話を聞くと、

不審者の情報は絶えないようですね。この点で事務局どうでしょうか。

**板谷教育支援センター長**

確かに若い方々が普段使うものがメールではなくなってきたのは実感しています、今後研究して行きたいと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【子どもを見守るシステム】**

- 子どもの安全を守るためには地域の協力が不可欠なので、引き続き、関係機関との連携を望む。
- メール配信サービス（不審者情報）の登録者は減少しているが、今後はLINEやSNSなど、時代のニーズに合わせた情報発信も検討して欲しい。
- 子ども110番の家いしかりサポート事業は、地域で子どもを見守る体制づくりとして有効と思われることから、引き続き取り組んで欲しい。

**施策（大項目）8 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実**

**村中委員長**

(No.44)「ユネスコスクールは現在小学校2校だが、活動のつながり上、中学校などにも拡大されることが望まれる。」実際は書き損じはがき回収など取り組まれている学校もありますが、できればユネスコスクールとなれば良いと希望しています。ESD、持続可能な開発のための教育ですが、当時小泉首相がユネスコで演説して11年目となり活動が広がっています。世界中で活動が広がっている中で、ぜひ、石狩もその基盤をつくって、石狩らしさを出して欲しいと思います。

**伊井副委員長**

(No.45)「いしかり市民カレッジが一層活性化されるよう、次の一步が踏み出されることを望む。」いしかり市民カレッジの登録者数ですが、数値は減少傾向ですが高止まりなのかなと思います。一層活性化されることを望んでいます。

(No.46)「環境教育の視点から、ユネスコスクールの取組を広く教員や市民に報告する機会を設けて欲しい。」幅広く、特にESDの観点では石狩市は先進的な取組をしていますので、ぜひ、広く報告する機会を設けて欲しいと思います。

(No.47)「社会教育総合施設について現地視察を行っているが、現地視察に関しては、色々な議論がある。場合によってはその成果報告の場を設定することを望む。」原案34ページに社会教育総合施設についての現地視察について記載されていますが、このご時勢、現地視察も市民の厳しい目にさらされていると思います。何か視察の意図と成果などについて、報告の機会を設定されても良いのではないかと思います。

**向田委員**

(No.48)「これからの高齢化社会に向け、学び交流センターが「心休まる居場所」としての役割も担うことを望む。」なかなか石狩市内には高齢者が伺える場所がないと思います。特に車椅子のまま行ける場所や、特に冬場お散歩がてら行く場所がないと感じています。学び交流センターは花川北地区の中心にありますので、高齢者が気軽に行けて、気分転換ができる施設になるよう、強くお願いしたいと思います。

**村中委員長**

事務局から、何かありますか。

**東生涯学習部次長（社会教育担当）**

ユネスコスクールについてですが、中学校への展開についてはここ何年か課題というところで受け止めています。学校側の考え方、受け止め方などもありますので、具現化に向けて話し合いをしているところです。委員長のおっしゃられるところは、双葉小学校、生振小学校の児童が卒業して中学校に進学したとき、ということの部分と思いますが、中学校では既に、環境、人権、平和など取組は進んでいますので、そんなにハードルは高くはないのではないかと考えています。ユネスコ協会含め、学校の理解が進むよう話し合いを続けたいと思います。

学び交流センターについてですが、年間約1万6千人が訪れます。比較的日中の利用もあるのでお子さんも来ますが、高齢者の利用が多いと思います。もともと学校ということもあり玄関や砂利道など、車椅子ではなかなか入りにくい面もあると認識しています。また、学び交流センターを中心に星置養護学校、児童デイサービスの“よかっち”、マリア幼稚園と月1回の連絡協議会を行っています。せっかくの複合施設なので、何らかの協力関係を継続して行きたいと思っています。また、気軽集える居場所ですが、例えば展示会などを行い、地域の方が気軽に利用できるように、この地域の特色を活かしながら、ご期待に応えられるよう具体的に検討を行きたいと思っています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【特色ある学校教育】**

- ユネスコスクールは現在小学校2校だが、活動のつながり上、中学校などにも拡大されることが望まれる。
- 環境教育の視点から、ユネスコスクールの取組を広く教員や市民に報告する機会を設けて欲しい。

**【生涯学習】**

- いしかり市民カレッジが一層活性化されるよう、次の一步が踏み出されることを望む。
- これからの高齢化社会に向け、学び交流センターが「心休まる居場所」としての役割も担うことを望む。

**【全体】**

- 社会教育総合施設について現地視察を行っているが、現地視察に関しては、色々な

議論がある。場合によってはその成果報告の場を設定することを望む。

## 施策（大項目） 9 学習の拠点としての図書館サービスの充実

### 村中委員長

(No.49)「市民図書館は図書館としても充実しているが、文化活動の場としてもよく活用されているので、継続した取組を望む。」場の提供も含めて、幅広い面で学習の場となって欲しいと思います。

### 伊井副委員長

(No.50)「市民図書館の利用登録者数の減少傾向の分析を引き続き望む。」昨年も同様に述べましたが、引き続き、利用登録者数の減少傾向の分析を行って欲しいと思います。  
(No.51)「市民図書館の持つ、本を借りる以外の「学びの拠点」としての用途を一層PRして欲しい。」委員長の言うとおりの、単に本を借りる場所ではなく学びの拠点としての位置づけがあると思います。十分、されているとは思いますが、一層PRをしてもらいたいと思います。

### 村中委員長

事務局から、何かありますか。

### 東生涯学習部次長（社会教育担当）

図書館の利用登録者数についてですが、昨年、図書館協議会でも現状を分析して今後活かすよう、同様のご意見を頂いており、これも含めて今年から5年間の図書館ビジョンの動きだしをしているところです。今年11月に図書館カフェというかたちで多くの方に集ってもらい、良い点だけでなく悪い点も話してもらおう予定であり、ここで出た課題を含めて、次年度以降アンケートを行い、次の計画に反映できるよう分析して行きたいと考えています。図書館は学びの拠点でもありますので、2つの柱である図書館機能と社会教育機能を充実させながらこの5年間取り組みたいと思います。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

#### 【市民図書館】

- 市民図書館は図書館としても充実しているが、文化活動の場としてもよく活用されているので、継続した取組を望む。
- 市民図書館の利用登録者数の減少傾向の分析を引き続き望む。
- 市民図書館の持つ、本を借りる以外の「学びの拠点」としての用途を一層PRして欲しい。

## 施策（大項目）10 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

### 村中委員長

(No.52)「文化活動を支援する教育委員会の支援はとても積極的と感じています。ユネスコ関連事業、文化団体事業などに社会教育委員や事務局が積極的に関わり成果を上げている。今後は財政面での支援が充実することを望む。」財政面の話では、今まで、石狩市は財政面が苦しく団体への支援を減らしてきていると思いますが、文化団体からはやはり大変だという声も聞こえます。ぜひ支援して頂ける方向になればと思っています。

### 伊井副委員長

(No.53)「地域の独自性を出したイベントの開催を引き続き望む。」原案を見ると様々なイベントが行われていると思いました。地域の独自性を出すというのは難しいとは思いますが、引き続き行って欲しいと思います。

(No.54)「石狩文化」を教育委員会がしっかりとアピールすることを望む。」原案の施策（大項目）10に「石狩文化の活用」とあり、市民文化ではなく石狩文化となっています。教育委員会もしっかりと石狩文化をアピールしてもらいたいと思います。

### 向田委員

(No.55)「アートウォームについては、地域の芸術家の力を活用するなどもうひと工夫し、市民が足を運びたくなるような施設となるよう望む。」市内には残念ながら美術館が今はありません。自分の中では、アートウォームという存在がもっと活用されるよう期待しています。常設展示ですとか、芸術・文化で市民が足を運びたくなるように、もう少し活用できるようにして欲しいと思っています。

### 村中委員長

事務局から、何かありますか。

### 東生涯学習部次長（社会教育担当）

財政面については、今まで様々な活動に対して補助をしていますが、基本的には継続、活動に応じて、事情を聞きながら可能であれば充実を検討したいと思います。

地域独自の文化・石狩文化については、俳句のまち石狩を含めて、特色を出して行っていますが、こういったものを一つの柱にしなが、また、市民文化祭は、その年に応じて日舞が出てきたり、子どものバンドがあったり、少しずつ動きがあります。このような動き全体で石狩の文化を形作っていると思っています。様々な方が発表できる機会を継続的に確保できるようにしっかりとやって行きたいと思っています。

アートウォームについては、NPOのほうで、主催事業含めて様々なところから費用調達しながら運営しており、市教委も一定の支援をしているところです。今後とも協力関係の中で運営を行っていただきたいと思います。ご意見については、なんらかの形で伝えたいと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【文化団体等への支援】**

○文化活動を支援する教育委員会の支援はとても積極的でよいと感じている。ユネスコ関連事業、文化団体事業などに社会教育委員や事務局が積極的に関わり成果を上げている。今後は財政面での支援が充実することを望む。

○アートウォームについては、地域の芸術家の力を活用するなどもうひと工夫し、市民が足を運びたいくなるような施設となるよう望む。

**【文化活動】**

○地域の独自性を出したイベントの開催を引き続き望む。

○「石狩文化」を教育委員会がしっかりとアピールすることを望む。

## 施策（大項目）11 ふるさとを学び伝える取組の充実

### 村中委員長

(No.56)「ふるさとを学び伝えることは、郷土愛に繋がり、とても大切であることから、継続して取り組んで欲しい。」郷土愛については、石狩市は合併して海岸線で80キロ程あると思いますが、その中での共通の郷土愛、ふるさと意識を培っていくことはとても大事だと思います。ふるさとを学ぶ機会を学校でも充実して欲しい。例えば、南線の地域は、今は住宅街でしかありませんが、地域の歴史としては、苦しい開拓時代から、町村牧場や明治乳業など大牧場・酪農の時代、水路を引いて水田地帯、そして現在のような住宅地、などと変遷があり、これを知るとは面白いと思います。本町ですともっと面白い歴史があります。子どもたちが学べるよう努力して行くことが大事だと思います。

(No.57)「鮭にまつわる文化も大切だが、厚田、浜益地域にあった鯺の文化など地域の文化が途絶えないように、大切に扱って欲しい。」望来獅子舞や沖上げ音頭など、既に取り組まれているとは思いますが、これからも大事にして欲しいです。

### 伊井副委員長

(No.58)「学校との連携を図り、子どもたちが「ふるさと」を学ぶ機会が充実することを望む。」既に実践されていると思いますが、一層充実することを望みます。

### 向田委員

(No.59)「石狩市内において、鮭が遡上する姿を見ることができたり、生態を学べるなど、「鮭」を学べる場があることが望ましい。」全国で北海道石狩と聞いて知らない人はごく少ないと思います。そして、石狩から鮭をイメージする人が大多数だと想像しますが、実際石狩市内で鮭を感じられるところが無いのはとても寂しいし残念です。豊平や千歳には鮭科学館があり鮭を感じられるのに、本拠地の石狩には生きた鮭の泳ぐ

姿を見たり、生態を学べる場がないのはくやしく感じます。そういった場があれば良いと思います。

**村中委員長**

事務局から、何かありますか。

**工藤文化財課長**

ふるさとを学び伝えることについて、具体的にどのようにしていくかということですが、過去のものについては有形・無形ありますが、沖上げ音頭や望来獅子舞など無形のものについては、映像で残して行く取組をしているところです。

鮭についてですが、鮭のまちとしての根本に関わる話だと思います。合併前の旧石狩市では、石狩川が大きすぎてなかなか見ることができません。ただ、合併し厚田、浜益と一緒にすることで、例えば浜益川では調査捕獲をしていますし、観察できる場所が何箇所かあります。また、厚田川では実際に稚魚を放流していて、鮭が遡上する姿を見ることが出来ます。合併した今の状況のほうが、見ることが出来る場所が増えたということが言えます。学校でも総合学習や社会科などで、歴史的な部分や鮭あるいは鯿など、学習の中に組み込みたいと相談される学校もあります。一層、情報提供は必要と考えていますし、一般の市民に対しても、実際に見に行く機会をつくるなどの取組も必要ではないかと思えます。なかなか十分に市民にお知らせできていないかもしれませんので、これからの取組として検討して行きたいと思えます。

**村中委員長**

浜益川の支流で於札内川という鮭の産卵を見ることができ。その光景は非常に面白いです。行くのは大変ですが、そういったものは見る価値があります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【ふるさと】**

- ふるさとを学び伝えることは、郷土愛に繋がり、とても大切であることから、継続して取り組んで欲しい。
- 鮭にまつわる文化も大切だが、厚田、浜益地域にあった鯿の文化など地域の文化が途絶えないように、大切に扱って欲しい。
- 学校との連携を図り、子どもたちが「ふるさと」を学ぶ機会が充実することを望む。
- 石狩市内において、鮭が遡上する姿を見ることができたり、生態を学べるなど、「鮭」を学べる場があることが望ましい。

**施策全体**

**村中委員長**

最後になりますが、全体について、伊井副委員長の意見をお願いします。



**伊井副委員長**

(No.60)「数値のみならず質的な評価も踏まえ、実効性のある評価を望む。」この会議は年に1度2時間程度ですが、このように教育委員会事務局と一堂に会することもなかなか難しいのではないかと思いますので、このチャンスを実効性のあるものにして行くよう、次年度につながるシステムをつくって頂きたいと思います。

(No.61)「分野を問わず、優れた実践の共有や外部への広報活動が充実して行くことを望む。」原案でも記載されていますが、石狩市内には優れた実践事例が沢山ありますので、共有して外部へ広報するというのを、一層進めて頂くよう望みます。

**村中委員長**

事務局から、施策全体に関わり何かありますか。

**蛸谷総務企画課長**

評価については、システマ的には、毎年度の点検評価の中で、今日頂いた意見を踏まえてしっかりとやっていきたいと思います。

指標の設定については、プランでは目標値を最終年度に設定されているところですが、実績の状況等を踏まえ、状況によっては後期プランで修正等するなど、また、毎年の点検評価作業での手法の検討など工夫したいと思います。

実践の共有と広報についてですが、石狩市教育委員会ではホームページ以外にも、年度当初に報道機関へ石狩市教育委員会の特長を情報提供し、イベントが近づくと広報メモを通して報道機関へ情報提供しています。また、教育委員会広報にじいろを3ヶ月に1回発行し、地域の方々との連携やユニークな教育活動などを取り上げ、地域や保護者へ広報活動をしています。今後はさらに良い方法がないか検討して行きたいと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

**【全体】**

- 数値のみならず質的な評価も踏まえ、実効性のある評価を望む。
- 分野を問わず、優れた実践の共有や外部への広報活動が充実して行くことを望む。

～ その他 ～

**村中委員長**

その他、何かありませんか。

**委員全員**

なし。

**村中委員長**

それでは、「報告書に記載する意見」についてですが、本日頂いた意見の最終的な確認については、委員長一任とさせて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか

**委員全員**

異議なし。

**村中委員長**

それでは、これをもって議事を終了したいと思います。各委員の皆さま、ありがとうございました。事務局へお返しします。

～ 閉会 ～

**蛭谷 総務企画課長**

ありがとうございました。本日の審議につきましては、事務局にて整理し、委員長のご確認のもと、議事録としてご報告させていただきます。

また、点検評価報告書につきましては、本日頂きましたご意見を掲載し、11月の教育委員会会議に諮った後、報告書を最終的に決定し、議会に提出、市民に公表したいと存じます。

以上で平成27年度石狩市教育委員会外部評価委員会を閉会します。本日はありがとうございました。

(12:00 終了)

平成27年11月6日会議録確定

石狩市教育委員会外部評価委員会  
委員長 村中 誠治